

葉山町立葉山小学校

研究テーマ：「思考力・判断力・表現力の育成～ICTを効果的に活用した授業づくり～」

1、実践の目的

葉山小学校では令和3年度までの4年間、「思いやりを育むための道徳教育」について研究を進め、一定の成果をあげることができた。

一方で、令和3年度に実施した6年生の全国学力・学習状況調査の結果から、国語・算数ともに「思考・判断・表現」に関する問題の正答率が、全国・県の平均より低く、全校的に苦手意識をもっている児童が多いことが判明した。

また、令和3年度より、全校児童にタブレットが配当されたが、授業の中での活用の仕方について、教師間での個人差があり、教師へのアンケート結果からもICTを効果的に活用した授業づくりを行いたいという意見が多数あった。

そこで、意見を共有するための伝達手段としてICTを授業で活用することで、児童が他の児童の意見を取り入れやすくなり思考が深まり、自らの表現力の向上につながると考えた。

さらに、ICTの活用が進んでいる葉山中学校の取組を受けて、小中一貫の観点から9年間を見据えた研究を一緒にできれば、価値ある研究となると考えた。

以上のことから、「思考力・判断力・表現力の育成を図るためにICTの効果的に活用した授業づくり」を研究テーマに設定した。

2、実践の内容

(1) 研究の仮説

ICT教材を選択し効果的に活用することによって、友だちの意見・思考を知ることができ、自分の考えを深めることができたという実感をもたせることが、思考力・判断力・表現力の育成、さらには学習全般への意欲の高まりへとつながっていくのではないかと仮説を立て、実践を行った。

(2) 校内研究の体制

- 年間5回の授業研究日を設定し、低・中・高の3ブロックごとに、指導案検討・授業研究・反省会を行ってきた。
- 様々なICT活用について学ぶために教科の設定は行わなかった。
- 指導案検討・授業研究日は葉山町教育委員会より指導主事・教育指導員の先生方を講師としてブロックごとにお招きし、指導・講評をいただいた。
- 「ICTを活用した授業づくり」をテーマとして、2名の外部講師を招聘して研修を行った。
 - 8月 NECサイバーセキュリティ戦略統括部 小林昌史氏
 - 1月、2月
フューチャーインスティテュート株式会社 教育ICT主宰 為田裕行氏
- 学びの連続性（小中一貫）の観点から、葉山中の教員も参加できるように連携をとった。併せて、葉山小教員も、葉山中の研究授業や事後検討会に参加した。

3、実践の成果

(教師へのアンケートより)

(1) 教師の変容

- 様々な授業を見ることで、ICTの活用方法がわかった。
- 教科を絞らなかつたこと、全員が研究授業を行ったことで、各教員の強みが生かされ、それぞれのICTの使い方を見つけることができた。また授業を見合うことでICT活用の可能性を広げることができた。
- 思考力の育成するための指導の手立てや支援の在り方を考えることにつながった。
- 観点別の評価の基準が明確になった。
- 単元を通して授業を計画することが定着してきた。
- 教科の特性に応じたICTの活用方法を考えることで、他教科への広がりも見出すこともできた。

(2) 子どもの変容

- ICTを活用することで、子どもたち自身の表現方法の幅が広がっていた。
- ICTをツールとして活用することで、普段は集団に参加することができない児童も集団に参加できたり、役割を担って自信につながったりした。
- ICTを活用した授業は、子ども自身の意欲関心の高まりにつながっていると強く感じた。
- 体育の授業において、ICTを活用して動画を撮り客観的に自分の技の動きを見ることができるようになったことで、子ども自身が思考するための判断材料が増えた。
- 書くことが苦手な児童も、タブレットを使用し、音声入力やタイピングを通して自分の思いを表現することができた。

4、今後の展開

(1) 実践の課題として

「ICTを活用する授業・流れ」にとらわれすぎてしまい、「思考力・判断力・表現力の育成」が中心の授業を計画しづらかったという意見が多かった。その中でも教師側の思考力の見取りとICTの効果的な活用を結びつけることの難しさを感じた。

また、研究方法として1人1回の授業実践だと個人で研究する場合もあったので、学年で議論し深めていくためにも、発表者は学年1人で、その授業をほかの担任が事前に行うような研究方法にした方が深まるのではないかと考える。

(2) 今後の研究の方向性

ICTの活用については、今年度の研究を通して、授業における一定の活用方法を学ぶことができたが、今後も引き続き、研究とは別に研修を通して学んでいく必要性がある。

「思考力・判断力・表現力の育成」については、1年でははっきりとした成果をあげるまでには至っていない状況である。そして、現在葉山町では、「9年間を見通した探究的な学び」を推進している。探究的な学びを通して育てたい資質・能力については、生活科・総合的な学習の時間の目標や学習過程そのものである。そこで来年度は探究学習の中心となる生活科・総合的な学習の時間を通して、探究的な学びへの理解を深め、実践力を高めることで、思考力・判断力・表現力の育成につなげていきたいと考える。